

和歌山病院での研修を終えて



西田 雄一郎

和歌山県立医科大学 6 年生の西田雄一郎です。私は 4 月の 3 週間、和歌山病院で実習させていただきました。なぜ和歌山病院を選んだかという、和医大サッカー部の大先輩である南方院長先生から直々に胸部 X 線読影について教えていただけると伺ったためです。

3 週間では多くのことを学ばせていただきました。南方院長の画像読影に始まり、駿田副院長の診察技術、担当症例についての勉強や発表、気管支鏡検査、等々。

X 線読影については 5 年時のポリクリで学んだことよりもさらに深く学びました。患者の体位や照射装置によるずれなど根本的なところから、胸膜、胸腔の解剖、読影テクニックまで、和歌山病院を実習先を選んでよかったと感じました。

特にこの実習期間で印象深かったことは、実習生同士でルートを取り合ったことです。はじめて自分でルートをとったのですが、なかなか感覚が掴めず相方の西谷君にはとても痛い思いをさせたしまったと思います、ごめんなさい。患者の痛みを自ら体験し、手技の上手な医師を目指そうと強く思いました。川邊先生はお忙しいところ、われわれ学生に付き合ってくださいありがとうございました。

和歌山病院は県内で唯一の結核入院施設で、結核の担当患者を持たせてもらい、入院基準や薬の副作用など、医大では経験できない症例を勉強できました。担当患者の主治医であった小野先生、大変お世話になりました。

最後になりましたが、南方院長、駿田副院長、研修医の先生方、その他多くの職員の方々に御礼申し上げます。3 週間ありがとうございました。